

教員養成に対する理念等

本学は、「人間平等」「個性尊重」「和と感謝」の建学の理念に基づいた基本理念のもと、「社会福祉を担う人材の育成」を目指して教育活動を展開してきており、そのなかにあって教員養成は、これらの基本理念のもとに展開された教育活動の成果を次代へと継承・発展させていくものとして期待される。

教育とは、子どもたちの現在に寄り添い、人間として豊かに生きていくための基礎を培いながら、子ども自身が未来を拓いていく過程を援助する営みである。それは、人間とは何か、豊かさとは何か、そして子どもの幸せとは何かを問い、人間の本質を見つめながら人間を「つくる」ことであり、その創造の力でもって社会を「つくる」ことでもある。本学が理念として掲げている福祉社会の創造もまた、その意味において、子ども自身が切り拓いていく未来に託される。

本学の教員養成は、教育が人間の本質を見つめ、人間をつくり、社会をつくるという認識のもと、人間育成という側面から、地域社会の発展に貢献し、福祉社会の創造に寄与することを目指す。保健・医療・福祉・教育にまたがる知識・技術の修得、豊かな教養に加え、教育に関する理論的・実践的探究を通して、以下の資質・能力を備えた教育者を養成する。

- 教職に求められる高度な専門性と「福祉の心」に支えられた豊かな人間性
- 子どもたちの心とからだを守り育て、生きた学びを創造し、人間らしい温かな心情を育むことができる指導力
- 次代を担う子どもたちと共働し、福祉社会を創造する力きる真の教育力の形成をねらう。